

バイオテクノロジーセミナー
1BT3 タカラバイオ(株)

11月25日(火) 12:00～13:00 / 第3会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3F 302)

次世代シーケンサーと多能性幹細胞ゲノムの解析

北川 正成 (タカラバイオ株式会社 執行役員 CDMセンター長)

1BT4 アフィメトリクス・ジャパン(株)

11月25日(火) 12:00～13:00 / 第4会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3F 303)

司会: 浅田 真二 (アフィメトリクス・ジャパン株式会社)

トランスクリプトーム解析で見えてくる脂肪細胞・骨芽細胞分化調節メカニズム

水野 洋介 (埼玉医科大学 ゲノム医学研究センター ゲノム科学部門)

1BT5 ソーラボジャパン(株)

11月25日(火) 12:00～13:00 / 第5会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3F 304)

光による細胞の『観察』から『操作』へ - モジュール式顕微鏡が拡げるアプリケーション -

司会: 佐生 和之 (ソーラボジャパン株式会社)

蛍光バイオセンサーを用いた生細胞イメージングとその応用

大場 雄介 (北海道大学 大学院医学研究科 生理学講座 細胞生理学分野)

1BT15 バイオ・ラッドラボラトリーズ(株)

11月25日(火) 12:00～13:00 / 第15会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 501)

ドロップレットデジタルPCRで切り拓く最新アプリケーション

ドロップレットデジタルPCRの原理と最新情報

副島 正年 (バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社)

従来の方法を超えるドロップレットデジタルPCRの応用例

八田 幸憲 (バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社)

1BT16 カールツァイスマイクロスコーピー(株)

11月25日(火) 12:00～13:00 / 第16会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 502)

Revolutionize your Confocal Imaging

座長: 影山 龍一郎 (京都大学ウイルス研究所 増殖制御学分野 / 京都大学 物質・細胞統合システム拠点)

bHLH型転写因子の発現振動のイメージングから明らかになる神経幹細胞の自己複製能と多分化能の制御機構

今吉 格 (京都大学・自眉センター / ウイルス研究所)

ピンホールの限界を超えた次世代コンフォーカル ZEISS LSM 880 with Airyscan ZEISS LSM 880 with Airyscan

Dr. Bernhard Zimmermann (Carl Zeiss Microscopy GmbH)

1BT17 シスメックス(株)

11月25日(火) 12:00 ~ 13:00 / 第17会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 503)

司会: 志波 公平 (シスメックス(株))

カイコを用いた組換えタンパク質発現の実際

朴 龍洙 (静岡大学グリーン科学技術研究所)

2BT3 プロメガ(株)

11月26日(水) 12:00 ~ 13:00 / 第3会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3F 302)

発光技術による最新の細胞毒性・生存性アッセイ

司会: 工藤 勤 (プロメガ株式会社 テクニカルサービス部)

発光技術による最新の細胞毒性・生存性アッセイ

Jim Cali (Corporation, Research Director)

2BT4 イルミナ(株)

11月26日(水) 12:00 ~ 13:00 / 第4会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3F 303)

次世代シーケンサーが広げるゲノムの世界

司会: 登内 未緒 (イルミナ株式会社)

サンプルから答えまで: NGS トータルソリューション

鈴木 健介 (イルミナ株式会社)

「次世代」に繋ぐシーケンシング今昔物語

小原 収 ((公財) かずさDNA研究所)

2BT5 フナコシ(株)

11月26日(水) 12:00 ~ 13:00 / 第5会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3F 304)

CRISPR-Cas9 System 最新情報!

Dr. Fangting Wu (System Biosciences, Inc. (SBI))

2BT8 日本バイオベース(株)

11月26日(水) 12:00 ~ 13:00 / 第8会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3F 315)

Omics データ解析の最前線

司会: 國田 竜太 (日本バイオベース(株))

バイオインフォマティクスによるマスターレギュレーターの予測

Dr. オルガ・ケル-マルゴリス (独geneXplain社)

2BT15 アジレント・テクノロジー(株)

11月26日(水) 12:00 ~ 13:00 / 第15会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 501)

Synthetic Biology 関連技術の紹介

司会: 長岡 修三 (アジレント・テクノロジー株式会社)

培養細胞や動物におけるゲノム編集—基本原理と可能性

山本 卓 (広島大学大学院理学研究科数理分子生命理学専攻)

アジレントが提供する新しいSynthetic Biology 関連製品の紹介

~大規模なタンパク質の変異導入キット、ゲノム編集用ツール~

田谷 敏貴 (アジレント・テクノロジー株式会社)

2BT16 和光純薬工業(株)

11月26日(水) 12:00 ~ 13:00 / 第16会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 502)

超高親和性モノクローナル抗体を応用したアフィニティータグ「PA tag」システム

創薬ターゲット蛋白質の生産におけるカスタムアフィニティータグシステム利用の威力

高木 淳一 (大阪大学 蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター
分子創製学研究室 教授)

次世代型アフィニティータグシステム「PA tag」新製品紹介

船越 拓 (和光純薬工業株式会社 試薬開発部)

**2BT17 Thermo Fisher Scientific
Life Sciences Solutions****ライフテクノロジーズジャパン株式会社**

11月26日(水) 12:00 ~ 13:00 / 第17会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 503)

RNAシーケンスとデジタルPCRがもたらす発現解析の新時代

- Comprehensive analysis から Validation まで

田中 宏樹 (旭川医科大学 臨床消化器・肝臓学診療連携講座 講師)

1BT3

タカラバイオ(株)

11月25日(火) 12:00 ~ 13:00 / 第3会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3F 302)

 Takara Clontech

第37回日本分子生物学会年会

タカラバイオ株式会社

ランチョンセミナー

11月25日 (TUE) 12:00 ~ 13:00

第3会場

(パシフィコ横浜 会議センター3階 302)

次世代シーケンサーと 多能性幹細胞ゲノムの解析

演者

● **北川 正成** (タカラバイオ株式会社 執行役員 CDMセンター長)
Masanari Kitagawa, Ph.D. (TAKARA BIO INC. General Manager CDM Center)

次世代シーケンサーの技術の進歩はゲノム、トランスクリプトーム、メチロームなどの解析手法に革新をもたらしてきました。本セミナーでは、多能性幹細胞を材料にしたこれらの解析例を中心に、弊社の受託サービスと関連製品の紹介をいたします。

タカラバイオ株式会社

<http://www.takara-bio.co.jp>

東京支店 TEL 03-3271-8553 FAX 03-3271-7282

関西支店 TEL 077-565-6969 FAX 077-565-6995

TaKaRaテクニカルサポートライン TEL 077-543-6116 FAX 077-543-1977



11月25日(火) 12:00~13:00 / 第4会場(パシフィコ横浜 会議センター 3F 303)



第37回日本分子生物学会年会バイオテクノロジーセミナー

日時 2014年11月25日(火) 12:00 - 13:00

第4会場(パシフィコ横浜 会議センター 3階 303)

トランスクリプトーム解析で見えてくる
脂肪細胞・骨芽細胞分化調節メカニズム

演者 水野 洋介 先生

埼玉医科大学 ゲノム医学研究センター ゲノム科学部門 助教

要旨 間葉系幹細胞は様々な細胞種への分化能を持つが、特に脂肪細胞と骨芽細胞への分化のバランスを調節するメカニズムは骨粗鬆症や生活習慣病の発症や病態と密接に関連する。

我々はこれまで、骨髄間葉系幹細胞が骨芽細胞や脂肪細胞へ分化する際の遺伝子制御ネットワークを描出し、骨芽細胞や脂肪細胞分化を調節する遺伝子やマイクロRNAを同定してきた。今回、間葉系幹細胞が脂肪細胞分化および骨芽細胞分化する際の調節に関するRNAバリエーションやnoncodingRNA(ncRNA)を同定することを目的として、分化誘導刺激を加えた細胞を用いてトランスクリプトーム解析を行い、全遺伝子の各エクソンとncRNAの発現変動を網羅的に調べた。その結果、顕著な発現変動を示すRNAバリエーションやncRNAを複数検出することができた。これらのRNAバリエーションやncRNAの中に、実際に分化の制御に関わるものが含まれていると考えている。

整理券制

配布場所: 会議センター 2階 受付付近

配布時間: 2014年11月25日(火) 8:00 - 11:00

アフィメトリクス・ジャパン株式会社 〒105-0013 東京都港区浜松町1-24-8 ORIX 浜松町ビル 7F
TEL: 03-6430-4020 E-mail: salesjapan@affymetrix.com
Homepage: www.affymetrix.com/jp/

1BT5

ソーラボジャパン(株)

11月25日(火) 12:00~13:00 / 第5会場(パシフィコ横浜 会議センター 3F 304)

第37回 日本分子生物学会年会
バイオテクノロジーセミナー

日時 2014年11月25日(火) 12:00~13:00
会場 第5会場
(パシフィコ横浜 会議センター3階 304)

光による細胞の『観察』から『操作』へ モジュール式顕微鏡が拡げるアプリケーション

演題 蛍光バイオセンサーを用いた生細胞イメージングとその応用

講演者 大場 雄介 先生(北海道大学 大学院医学研究科 教授)



スキャナと自動XYステージを搭載し、
共焦点顕微鏡システムへとアップグレード
された倒立顕微鏡

GFPやFRET等と用いた蛍光バイオセンサーによる生細胞イメージングは、生理的条件下での分子や細胞の振る舞いを観察することが可能で、今や生物学研究での当たり前のツールの一つとなった。

イメージングの手法は基礎研究はもちろんのこと、臨床面においてもその力を発揮する可能性が示されつつある。

イメージングを行うためには最新の高価なシステムを導入しなければいけない印象があるが、必ずしもそうではなく、現有の機器を最大限に活用して自分の研究に最適なシステムを構築することも十分可能である。



当社標準品のみで構築された
倒立顕微鏡

<http://www.thorlabs.co.jp>

E-mail: sales@thorlabs.jp

THORLABS ソーラボジャパン株式会社

1BT15

バイオ・ラッド ラボラトリーズ(株)

11月25日(火) 12:00~13:00 / 第15会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 501)

第37回日本分子生物学会年会 バイオテクノロジーセミナー

ドロップレット デジタルPCRで切り拓く 最新アプリケーション

日時：11月25日(火) 12:00~13:00
会場：第15会場 パシフィコ横浜 会議センター 5階501

ドロップレットデジタルPCRの原理と最新情報

副島 正年 バイオ・ラッド ラボラトリーズ プロダクトサポートマネージャー

「第三世代のPCR」として注目されるデジタルPCR技術をハイスループット化することに成功したドロップレットデジタルPCR(ddPCR™)のQXシリーズはおかげさまで多くの研究者の方々にご好評いただいております。本講演では、このddPCRの原理からQXシリーズ最新機種種のQX200システムおよび関連の新製品をご紹介します。

従来の方法を超えるドロップレットデジタルPCRの用例

八田 幸憲 バイオ・ラッド ラボラトリーズ シニアフィールドアプリケーションスペシャリスト

高精度に微量遺伝子定量を実現するddPCRでは従来のデジタルPCRの枠を超えた独自のアプリケーションが開発されつつあります。またNGSなどの先端技術をサポートするアプリケーションもddPCRで利用されています。本講演では、ddPCRの最新アプリケーションについて具体例を提示しながら、ご紹介していきます。



QX200™ Droplet Digital PCR System

BIO-RAD

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社
ライフサイエンス事業部 www.bio-rad.com

1BT16

カールツァイスマイクロスコピー(株)

11月25日(火) 12:00~13:00 / 第16会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 502)

第37回日本分子生物学会 バイオテクノロジーセミナー
カールツァイスマイクロスコピー株式会社

Revolutionize Your Confocal Imaging

日時 11月25日(火) 12:00~13:00

場所 第16会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5階 502)

座長

影山 龍一郎 先生

京都大学ウイルス研究所 増殖制御学分野/ 京都大学 物質-細胞統合システム拠点

講演 1

bHLH型転写因子の発現振動のイメージングから
明らかになる神経幹細胞の自己複製能と多分化能の制御機構

今吉 格 先生

京都大学 白眉センター/ ウイルス研究所

近年、システムズバイオロジーやシングルセルバイオロジーの観点から、細胞の振る舞いや状態を制御するメカニズムの統合的な理解が急速に進んでいる。そのためには、内在性のタンパク質の細胞内局在変化や発現量の時間変動を、それらの本来の発現量をありのままの形で保持しつつ、且つ、高解像度でイメージングする事がますます重要になってくると予想される。我々は、神経幹細胞の自己複製や分化制御において重要な働きをするbHLH型転写因子に着目し、それらの発現動態を単一細胞レベルでイメージングすることに成功した。本セミナーではイメージングから明らかになったbHLH型転写因子の発現振動の意義について紹介したい。

講演2

ピンホールの限界を超えた次世代コンフォーカル
ZEISS LSM 880 with Airyscan

Dr. Bernhard Zimmermann

Carl Zeiss Microscopy GmbH

カールツァイスマイクロスコピー株式会社

TEL 03-3355-0332 E-mail microscopy.ja@zeiss.com

URL <http://www.zeiss.co.jp/microscopy>

営業所: 東京/大阪/名古屋/福岡/仙台



We make it visible.

1BT17

シスメックス(株)

11月25日(火) 12:00~13:00 / 第17会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 503)



第37回日本分子生物学会年会バイオテクノロジーセミナー カイコを用いた組換えタンパク質発現の実際

日時: 11月25日(火) 12:00~13:00

静岡大学グリーン科学技術研究所

会場: 第17会場(パシフィコ横浜 会議センター 5階 503) 講演者: 朴 龍洙

ポストゲノム時代に入り、ゲノムからタンパク質へと急速に研究の場が広がっている。これまで、主に大腸菌を中心としたタンパク質の発現が行われてきたが、翻訳後修飾の不備のため発現しても機能しない等の問題があり、近年、タンパク質の合成能力が極めて高いカイコに生物機能を持つ高次タンパク質の大量発現への期待が高まった。カイコに遺伝子を導入する方法は、バキュロウイルスを用いる従来の方法と、カイコ用バクミド (*Bombyx mori* nuclear polyhedrosis virus bacmid; BmNPV bacmid) 法がある。バクミド法は、煩雑な操作や遺伝子組換えに要する時間を大幅短縮することができ、大腸菌レベルの遺伝子操作でカイコへの遺伝子導入が可能であると知られている。

本発表では、カイコによる様々なタンパク質の発現例、分泌タンパク質、膜タンパク質及びウイルス様粒子の発現例を紹介し、カイコ発現系の長所、短所を紹介する。今後、カイコ個体を用いたタンパク質発現技術は、動物薬を含んだ創薬分野およびライフサイエンスの基礎分野において飛躍的な発展をもたらす強力な基盤技術となることが期待できる。

※本発表前にシスメックス株式会社より ProCube サービスをご紹介します。

ProCube

Harness the Power of Nature

カイコ-バキュロウイルス発現系を用いたリコンビナントタンパク質発現受託



Codon
Optimization



Gene
Synthesis



Plasmid
Subcloning



Tag
Construction



Recombinant
Virus



Protein
Expression



Affinity
Purification



Tag Cleavage



Polishing Step
Purification



Certificate
of Analysis



Immobilization

ProCube についての詳細は... procube.sysmex.co.jp

メールでのお問い合わせは... procube.japan@sysmex.co.jp

製造販売元

シスメックス株式会社

本社 神戸市中央区臨海海岸通 1-5-1 〒651-0073

バイオテクノロジーセンター 神戸市西区室谷 1-1-2 〒651-2241 Tel 078-991-2212 Fax 078-992-1082

東京支社 東京都品川区大崎 1-2-2 〒141-0032 Tel 03-5434-8556 Fax 03-5434-8557

www.sysmex.co.jp

11月26日(水) 12:00 ~ 13:00 / 第3会場 (パシフィック横浜会議センター 3F 302)

第37回日本分子生物学会年会 バイオテクノロジーセミナー

発光技術による 最新の細胞毒性・生存性アッセイ

Illuminating cytotoxicity and cell viability
with optical assay chemistries

発表日: 11月26日(水) 12:00 ~ 13:00

会場: 第3会場 (パシフィック横浜会議センター 3F 302)

演者: **Jim Cali (Corporation, Research Director)**

現代の毒性試験では、培養細胞と様々なアッセイケミストリーを用いることによりin vivoでの結果を予測するin vitroシステムの重要性が増しています。細胞生存アッセイあるいは細胞死アッセイで毒性の強さを調べる一方で、メカニスティックアッセイはそれらの作用機序を明らかにします。

本セミナーでは細胞毒性/生存性の発光アッセイケミストリーと毒性メカニズムについて焦点をあてます。まず、細胞毒性の最も基本となる投与量と時間の2つのパラメーターを1つのサンプルセットより測定できる新しいリアルタイム細胞生存性アッセイについてご説明いたします。そして、毒性ストレスに重点をおいてメカニスティックな毒性マーカーの測定法について言及します。各アッセイはハイスループットフォーマットでホモジニアスなマルチプレックスアプリケーションに対応します。

**Promega****プロメガ株式会社**

Tel. 03-3669-7981 / Fax. 03-3669-7982

E-Mail : prometec@jp.promega.com Web site : www.promega.co.jp

テクニカルサービス Tel. 03-3669-7980 / Fax. 03-3669-7982

11月26日(水) 12:00~13:00 / 第4会場(パシフィコ横浜 会議センター 3F 303)

illumina®

共催：第37回日本分子生物学会年会 / イリミナ株式会社

バイオテクノロジーセミナー

- 日時：2014年11月26日(水) 12:00~12:50
- 会場：第4会場(会議センター：3F 303)

次世代シーケンサーが広げるゲノムの世界

Welcome to the Genome World

「次世代」に繋ぐシーケンシング今昔物語

The Tales of Times Now Past on DNA Sequencing: Moving Towards "Next-Generation"

招待講演：小原 収 先生 ((公財) かずさ DNA 研究所)

Osamu Ohara (Kazusa DNA Research Institute)

サンプルから答えまで：NGS トータルソリューション

Sample to Answer: NGS Total Solution

企業講演：鈴木 健介 (イリミナ株式会社)

Kensuke Suzuki (Illumina K.K.)

次世代シーケンサー (NGS) が登場してから、分子生物学研究は大きく変革しました。現在、NGS はゲノム、トランスクリプトーム、エピゲノム分野で主要な解析手法として広く使われています。本セミナーでは、こうした多様化するアプリケーションに対応するため、現在イリミナが取り組んでいる「Sample to Answer」のながれについてご紹介します。次に過去から現在のシーケンスにまつわる話を、かずさ DNA 研究所の小原先生にご講演いただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。



展示会場では NextSeq、MiSeq を展示中です。
ぜひ、弊社ブースまでお越しください。



第37回日本分子生物学会年会バイオテクノロジーセミナー

CRISPR-Cas9 System 最新情報!

PrecisionX™ Cas9 SmartNuclease System

注目のゲノム編集ツール CRISPR-Cas9 システムについて、PrecisionX Cas9 SmartNuclease System の開発者である Dr. Fangting Wu を System Biosciences (SBI) 社から招き、最新情報を交えて詳しくご紹介いたします。

日時：11月26日(水) 12:00~13:00

会場：第5会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3階 304)

演者：Dr. Fangting Wu, Senior Scientist

System Biosciences, Inc. (SBI)

CRISPR-Cas9 システムは新たなゲノム編集ツールとして注目されています。標的配列デザインの簡便さ、ベクター構築の容易さから ZFN や TALE-Nuclease によるゲノム編集に取って代わる手法として期待されています。本セミナーでは、ゲノム編集ツールのパイオニアである System Biosciences 社ならではの幅広い製品ラインナップを、最新の知見を交えてご紹介いたします。

CRISPR : Clustered Regularly Interspaced Short Palindromic Repeats

【製品ラインナップ】

CRISPR-Cas9 製品

製品タイプ

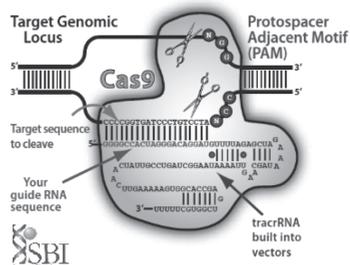
- All-in-one vector system
- Cas9 mRNA
- T7 gRNA kit

Cas9 の種類

- hspCas9
- hspCas9 Nickase (D10A)
- hspCas9 DM Null Nuclease

ドナーベクター製品

- Gene knock-out donor
- Gene knock-in donor
- Gene tagging donor
- Gene correction donor (PiggyBac System)



フナコシ株式会社 ■ 試薬に関して

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目9番7号 e-mail: reagent@funakoshi.co.jp

■ 受託に関して

Tel. 03-5684-1645 Fax 03-5684-6539 e-mail: jutaku@funakoshi.co.jp

■ 機器に関して

Tel. 03-5684-1619 Fax 03-5684-5643 e-mail: kiki@funakoshi.co.jp

2BT8

日本バイオベース(株)

11月26日(水) 12:00～13:00 / 第8会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3F 315)

第37回日本分子生物学会年会 共催
日本バイオベース株式会社 ランチオンセミナー

Omics データ解析の最前線

Upstream Analysis of gene signatures by geneXplain platform and
BIOBASE databases

～ Identification of master regulators of biological process ～

日時 2014年11月26日(水) 12:00～13:00

会場 第8会場 (パシフィコ横浜 会議センター 3階 315)

演者 Dr. Olga Kel-Margoulis (独 geneXplain 社)

ハイスループットデータの取得は、生命現象理解のための一般的なストラテジーである。例えば、病態の理解の目的で、組織や細胞のトランスクリプトーム解析が行われる。その後得られるのは、発現が変動(亢進または減少)した遺伝子群の情報であるが、これらの情報で行うパスウェイ解析などのスタンダードな解析に満足できない研究者も多い。

本日紹介する geneXplain platform では、著名な公的データベースや BIOBASE データベース (TRANSFAC Professional 等) を用いた多様なバイオインフォマティクス解析が可能である。本オンラインワークベンチで可能なスタンダードな解析法から、geneXplain 社の Upstream Analysis (生命現象に関わるマスターレギュレーターへの予測) まで解説する。

また、IFN type III 処理した肝細胞の遺伝子発現プロファイル (GSE31193) を例に、マスターレギュレーターへの予測などの解析法や結果を紹介する。



日本バイオベース(株)

〒142-0063 東京都品川区荏原 4-7-3 TEL03-6426-4212 www.biobase.co.jp

2BT15

アジレント・テクノロジー(株)

11月26日(水) 12:00 ~ 13:00 / 第15会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 501)

第37回日本分子生物学会年会
アジレント・テクノロジー
ランチョンセミナー



Synthetic Biology 関連技術の紹介

Introducing key enabling technologies related to Synthetic Biology

培養細胞や動物におけるゲノム編集 – 基本原理と可能性

広島大学大学院理学研究科数理分子生命理学専攻

山本卓 先生

Genome editing in cultured cells and animals – basics and possibilities

Takashi Yamamoto, Department of Mathematical and Life Sciences, Graduate School of Science, Hiroshima University

近年、任意の配列に対して設計可能な人工ヌクレアーゼ (Zinc-finger nuclease (ZFN) や Transcription activator-like effector nuclease (TALEN)) を用いた遺伝子改変技術 (ゲノム編集技術) が開発され、生命科学の基礎から応用に至る様々な分野での利用が広がっている。さらに昨年、新規のゲノム編集技術として CRISPR/Cas システムが報告され、これまで標的遺伝子改変が困難であった動物や植物、微生物におけるゲノム編集が競って進められている。ゲノム編集は、人工ヌクレアーゼあるいは CRISPR/Cas システムを細胞や受精卵に導入するだけで変異導入が可能であること、ドナーベクターを利用することで塩基レベルから染色体レベルの変改も可能であることから、次世代の遺伝子改変技術として期待されている。本セミナーでは、ZFN から TALEN、そして CRISPR/Cas へと展開してきたゲノム編集技術研究の進展を紹介し、今後のこの技術の可能性について議論する。

アジレントが提供する新しい Synthetic Biology 関連製品の紹介

～大規模なタンパク質の変異導入キット、ゲノム編集用ツール～

アジレント・テクノロジー株式会社 田谷敏貴

Agilent offers new products related to synthetic biology. -Large scale protein mutagenesis, genome editing tool-

Toshiki Taya, Genomics Application Group, Agilent Technologies Japan, Ltd.

日時 11月26日(水) 12:00 ~ 13:00

会場 第15会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5階 501)

アジレント・テクノロジー株式会社
〒192-8510 東京都八王子市高倉町 9-1
Tel. 0120-477-111 / email_japan@agilent.com
http://agilent.com/chem/jp

Premier Laboratory Partner
for a Better World



Agilent Technologies

2BT16

和光純薬工業(株)

11月26日(水) 12:00~13:00 / 第16会場(パシフィコ横浜 会議センター 5F 502)



第37回

日本分子生物学会バイオテクノロジーセミナー

超高親和性モノクローナル抗体を応用した アフィニティータグ「PA tag」システム

[発表日] 11月26日(水) 12:00~13:00

[会場] 第16会場(パシフィコ横浜 会議センター 5階 502)

[司会] 和光純薬工業株式会社 営業企画部 馬場啓之

【演題名・演者名】

1

創薬ターゲット蛋白質の生産における カスタムアフィニティータグシステム利用の威力 (50~55分)

高木 淳一

(大阪大学 蛋白質研究所 附属蛋白質解析先端研究センター 分子創製学研究室 教授)

2

次世代型アフィニティータグシステム 「PA tag」新製品紹介 (5~10分)

船越 拓

(和光純薬工業株式会社 試薬開発部)

プログラム概要

本セミナーでは、大阪大学蛋白質研究所 高木淳一先生を講師としてお招きし、独自のアフィニティータグシステムを駆使した高品質な組換え蛋白質生産について、最新情報と今後の課題を概説いただきます。

また、動物細胞を用いた組換え蛋白質生産における次世代型アフィニティータグシステム「PA tag」の新製品をご紹介します。

和光純薬工業株式会社

本社：〒540-8605 大阪市中央区道修町三丁目1番2号
東京本店：〒103-0023 東京都中央区日本橋本町二丁目4番1号
営業所：北海道・東北・筑波・藤沢・東海・中国・九州

問い合わせ先
フリーダイヤル：0120-052-099 フリーファックス：0120-052-806
URL：<http://www.wako-chem.co.jp>
E-mail：labchem-tec@wako-chem.co.jp

2BT17

Thermo Fisher Scientific Life Sciences Solutions ライフテクノロジーズジャパン株式会社

11月26日(水) 12:00 ~ 13:00 / 第17会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5F 503)

Ion Torrent™

第37回日本分子生物学会年会共催 バイオテクノロジーセミナー

会期 2014年 11月26日(水) 12:00 ~ 13:00

会場 第17会場 (パシフィコ横浜 会議センター 5階 503)

演題

「RNAシーケンスとデジタルPCRがもたらす発現解析の新時代
- Comprehensive analysis から Validation まで」

田中 宏樹 先生 (旭川医科大学 臨床消化器・肝臓学診療連携講座)

RNAシーケンスによる網羅的遺伝子発現解析により、従来のRT-PCRでは検出できないレベルで、高感度に発現変動を捉えることができるようになった。さらに、デジタルPCR法による遺伝子発現解析では、わずかな発現変動も明確に捉えるようになっている。すなわち、RNAシーケンスおよびデジタルPCR法を組み合わせた遺伝子発現解析から新たなものが見えてくる時代に突入したと言える。

RNAシーケンスから得られる大量のデータの何に注目すれば良いのだろうか？

本セミナーでは、我々が行ったRNAシーケンスおよびデジタルPCRによる遺伝子発現解析の一連の流れを紹介する。



共催：第37回日本分子生物学会年会・
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
ライフテクノロジーズジャパン株式会社

facebook.com/LifeTechnologiesJapan @LifetechJPN

研究用のみ使用できます。診断目的およびその手続上での使用は出来ません。記載の社名および製品名は、弊社または各社の商標または登録商標です。

標準販売条件はこちらをご覧ください。www.lifetechnologies.com/TC

For Research Use Only. Not for use in diagnostic procedures. © 2014 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved.

All trademarks are the property of Thermo Fisher Scientific and its subsidiaries unless otherwise specified.

ライフテクノロジーズジャパン株式会社

本社：〒108-0023 東京都港区芝浦 4-2-8

TEL：03-6832-9300 FAX：03-6832-9580

www.lifetechnologies.com

life
technologies

A Thermo Fisher Scientific Brand